

平成26年度 第8回 緩和ケア講演会のご報告

今年度の第8回緩和ケア講演会は、1月8日に開催いたしました。出席人数は55名、うち、院内34名、院外21名でした。

今年度の年間テーマは「緩和ケアにおける各種スキル ～地域における各職種のプロに学ぶ～」です。第8回目の今回は「ふつうの生活のひとコマをみつめて」というテーマで、たなかクリニック 作業療法士 目良幸子先生に作業療法についてご講演いただきました。

看取りが近づくと、もうリハビリは必要ないと思いがちですが、関節を少し曲げ伸ばしするだけでも、拘縮によって起こる痛みが改善されるそうです。リハビリは回復期のみではなく、終末期にも必要であることなど、大変貴重なお話を聞くことができました。

アンケートでのご質問について、目良先生にお答えいただきましたので、コメントを添えさせていただきます。

ご質問・ご意見とそのコメント

①対象者の希望(やりたいこと)を引き出すコツが知りたいです。

まずは、対象者ご本人の今までの活動歴をうかがいます。職業や趣味活動を含めて好きなことや得意なことがないかを確認します。そして、現在の身体的、心理的能力を考慮して、どの程度の作業活動が適当かを考えます。いくつかの候補を準備して、ご本人の意見を確認しながら活動を紹介していきます。やってみたいというお気持ちがあれば、作業活動に参加してくださるようになります。また、作品例を提示して見ていただくことも良いと思います。

②高齢者施設にはOT がないのですが、他の職種でできるような作業があれば例を教えてください。

女性の方には編み物や刺し子刺しゅうなどの活動は、よく経験されていた場合に手が覚えていて自然にできることがあります。男性の方には囲碁や麻雀などゲーム感覚でできることが好まれます。書店にある習字のための絵本や塗り絵の本やパズルの本を活用することもあります。

③前向きになれない人に対してどのように対応していますか。

ご本人がどのような状況の中で何を考えていらっしゃるかをわかる範囲で確認して、その方のお気持ちを推察してみます。その方のお気持ちが幾分理解できれば共感も可能ではないかと思います。基本的には、ご本人のニーズにそうすることが大切なので、あれこれと提案してみても受け入れていただけることを少しずつ行います。

④生きた証(作品)を残すことでご家族が辛い思いをされないでしょうか。

作品をどのように残すかはご本人やご家族の意向に合わせます。手元に置きたい時は持ち帰っていただきますが、場合によっては病院や施設に残しておくこともあります。「目にすると辛いけれど、リハ室に飾ってもらえるとうれしい」というご家族の希望もあります。

ご質問・ご意見ありがとうございました。今後もどしどしご意見をお寄せ下さい。

地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院

地域医療連携センター FAX : 0572-22-7948 緩和ケア内科 Mail: kanwa@tajimi-hospital.jp